

同じ先生で、同じ教材で習って なぜ成績が違うのだろう

志学院塾長 熊谷稜昭

私が予備校生だった頃（昭和の後半）のお話です。その予備校は当時毎年のように東京大学に約1800名程の合格者を出していました。成績順にクラス教室をA組、B組、



C組・・・と分け、各教室には250名以上も生徒がいました。各教室では、左側から右側に成績順に席が決められて各行には15席ぐらい？あり1行目、2行目、3行目・・・と成績が下になっていきます。

どのクラスの教室か忘れましたが、前から4～5行の真ん中ぐらいに私の席がありました。私の左側にはワタナベ君、右側はアオヤギ君でしたが二人とも同じ高校を卒業していました。現在でも日本で一番多く東京大学に合格するとされている有名な私立の中高一貫校です。私は東北の田舎の公立高校出なので、東京でスマートに育った彼等が羨ましく思っていました。しかし、隣同士慣れるに従ってお互いが仲良くなっていき、彼らの人柄も優れていたのも、私は彼等から学ぶことも多かったと思います。また、彼等の卒業した高校の生徒

もその予備校には何人もいて、二人を通じてその人達とも友達になることができ、友達には恵まれました。



ある日のこと午前中に授業が終わって皆で駅にむかって歩きながらの話題を今でも忘れることができません。

「僕らの前にいる生徒はなぜ成績が僕らより上になるのだ？」

「そうだよな。同じ先生で、同じ教材で、同じく一日は24時間で……なぜ成績が違うのだろう？僕らもちゃんと勉強しているのに……」

その日はワケがわからないまま何も結論が出ないで皆帰宅しました。

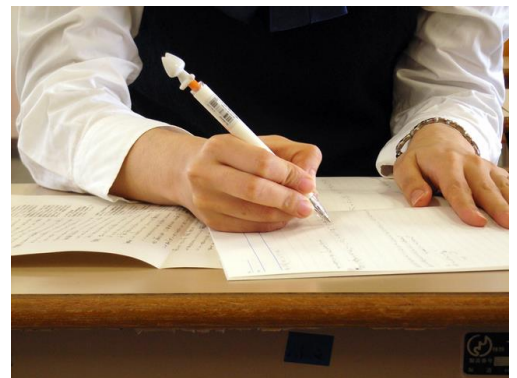
あなたはなぜだと思えますか。「それが能力差」と言うものでしょうか。「頭の良さ悪さ」だからでしょうか？もしそうだとすれば順位は永遠に固定化してしまわずです。実際、次の段階での席順はクラス順位も含めて皆バラバラになってしまいました。何故でしょうか？

客観的事実かどうかは別として「いい授業」

「いいテキスト」「いい講師」その結果として

「実績」を宣伝している塾、予備校がありま

す。殆どの生徒は塾、予備校を選択するときに、



これらを判断基準にして塾を決めるのでしょうか。

それはそれで大変いいことだと思います。

しかしです。これだけでその塾なり予備校が君の成績、学力を確実に向上させてくれるかどうか保証は全くありません。学ぶための環境が万全であったとしても、それは外的環境がそろっただけで、たとえ同じ能力を持っていても学力差が生じます。

それでは何が大事かというと、実は「学習の仕方」と「生活の仕方」の二点が最終的な重要ポイントなのです。

第一に学習する際、英語には英語の独特の学習法があり数学には数学の独特の学習法があります。

国語、理科、社会も独特の学習法がそれぞれあります。皆さんの周りにもいませんか？英語はトップクラスだけれど数学はパツとしないという人を。またはその逆の人を。理由は英語も数学もその人独特のこだわりやクセやパターンで



一律に進めているからです。

第二に能力が同じであっても生活習慣から来る学力差は事実無視できない程の大きいものになります。

学力向上にマイナスになる生活習慣を「生活習慣病」と私は呼ぶことにしています。それ程学力向上にとっては恐ろしいマイナス要因となります。自己流で学習し、生活時間の使い方なども方針がないならば、努力の割に成績が目標に届かないのは当然の結果ということでしょう。外的学習環境が整った上に、「学習の仕方」と「生活の仕方」の二点、これが軌道に乗れば飛躍的に成績が向上していきます。「学習の仕方」と「生活の仕方」を詳しく解説している「効果的な学習法を求めて」を参考にしてください。皆さんの日々の見直しを是非お願いします。

(転載引用不許可)